

関西大学経済人クラブ会報誌

KEIZAIJIN CLUB NEWS

KANSAI UNIVERSITY

It started aiming to attempt cultivating friendship in November, 1963



Special Interview 02 / 第246回 特別例会・2025年度総会 / 第247回 例会 / 第248回 例会 / 第249回 例会
第2回 関西大学校友会 経済人クラブ全国大会 / 2025年 秋のゴルフコンペ / NEWS! / SCHEDULE
MEMBER'S VOICE / MEMBER'S COLUMN / 新入会員のご紹介



KEIZAIJIN CLUB NEWS 2026

2026年5月1日発行

発行 / 関西大学経済人クラブ TEL 06-6368-1974
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-35 関西大学100周年記念会館内(株)関大パンセ気付

関西大学校経済人クラブ 若手会

KANDAI entrepreneurs

CHECK & FOLLOW!



Instagram @kandai_entrepreneurs

経済人クラブ若手会は、次世代を背負って立つ若手メンバー同士が気軽に交流を図ることができるように設立された会です。交流会・研修会だけでなく、趣味や遊びを通じて、若手世代の交流と親睦、自己啓発を図り、母校関西大学出身者による人脈の形成を目的としています。40歳以下の関西大学出身の方・現役関大生は、ご入会いただけます。

2025.4-2026.3

GUEST SPEAKER

関西大学梅田キャンパスにて年に4回 例会を開催。会社経営者や個人事業主、学生、将来事業を志す方など、経済界で活躍する若者たちが集まり、講演会や懇親会を通じて相談や意見交換を行い、親睦を深めています。例会以外にも、若手会限定オフ会の開催やオンライン上での情報の共有を行い、交流を図っています。

2025.4.9



若手会 × アトツギ
Supported by ATOTSUGI LABO
第5回「アトツギ甲子園」
ファイナリスト

2025.8.6



万博で輝く関大 DNA
～関大 OB・OG の挑戦～
白ハト食品工業株式会社
代表取締役 永尾 俊一氏

2025.10.8



継続は才能さえも超えてゆく
2020年東京オリンピック
空手女子形銀メダリスト
清水 希容氏

2026.1.21



データ戦略こそが
ビジネスを成功させる
エムスリーソリューションズ株式会社
代表取締役会長 中村 利江氏

2026年卒業
関大生による
卒業プレゼン



会員募集中! 【入会資格】40歳以下の関西大学卒業生

41歳以上の方もゲストとしてご参加いただけます。皆様のご参加をお待ちしております。
若手会例会のご案内の際には、お気軽にお申し込み・お問い合わせください。

芋縄 隆史 Takashi Imonawa

PROFILE

1987年関西大学商学部卒業。在学中はアメリカンフットボール部に所属し『勝って涙する事』を経験、卒業と同時にスーパーマーケット(株)コノミヤに入社、32歳で社長就任、出店とM&Aを繰り返し5店舗から現在108店舗に成長させる。その他4500頭の肉牛牧場経営や、乳牛8000頭の牛乳を扱う他、レストラン経営や女子サッカーなでしこリーグ『スペランツァ大阪』のオーナー兼会長、現在関西大学理事。校友会副会長、2025年より関西大学経済人クラブ第10代会長。



2025年、関西大学経済人クラブは新たな体制でのスタートを切りました。新会長に就任された芋縄氏が掲げるのは、これまで築かれてきた想いを大切に受け継ぎながら、さらに多くの仲間とつながり、実りある交流を広げていくこと。本特集では、芋縄氏から会員の皆さまへ向けたメッセージをお届けします。

前会長の思いの踏襲と、次の役割
 今回、会長職をお引き受けするにあたって、これまでの路線を大きく変えるつもりは全くありませんでした。永尾前会長が築いてこられた運営体制・会の方針の構築は、経済人クラブにとって非常に大きな成果だったと思っています。だからこそ、その流れをしっかり受け継ぎながら、次の段階として「安定した運営」と「さらなるつながり」をつくっていくことが、今の私の役割だと考えています。

数は力。数珠つなぎで輪を広げる
 これから目指したいのは、さらなる会員数の増加、そして例会参加者数を200人、300人規模へと広げていくことです。もちろん、人数が増えることで雰囲気が変わるのでは、という声もあります。ただ私は、むしろ人が増えることで多様な価値観との出会いが生まれ、結果として会全体が健全に成長していくのではないかと考えます。若手も大歓迎です。どんどん先輩を頼りながら、そして先輩は後輩を育てて、一緒に会とビジネスを盛り上げていく。皆で経済人クラブのネームバリューを底上げし、口コミで広がっていくことを願っています。「数は力」で好循環を生み出していきたいと考えています。

関大卒業がステータスになる
 東京の某他大学の同窓会組織が強いと言われるのは人数の多さだけでなく、交流から自然に仕事につながる仕組みがあるからです。関西大学も、経済人クラブを通じて「関大はビジネスに強い」という評価を市場に広げていくことができるはず。関大卒」という肩書きが社会人になってからのステータスになるように、経済界を盛り上げられるといいですね。関大のブランド力は実社会で活躍する私たちが担っていると言っても過言ではありません。

「出席してくだやう」それが一番のメッセージ
 経済人クラブの価値は、やはり「人と出会うこと」にあります。講演会で学び、懇親会で語り合い、そこから仕事にもつながる。例会という接点「点」のポイントを、日常につなげて「線」にしていくことが大切です。正直に言えば、ガツガツビジネスしたいという下心いっぱい来ていただいている構いません(笑)。仕事につなげたい、人脈を広げたい、刺激が欲しい。そういう思いがあるからこそ、参加する意欲が一層湧き、積極的に交流が生まれると思っています。交流することで信頼関係も生まれて長い付き合いになるでしょう。とにかくまずは出席してほしい。それが一番の願いです。

会員の皆さまへ Message for Keizaijin Club Members

私自身のモットーは、コツコツと地道に努力をすること「コツコツが勝つコツ」です。他人と比べるのではなく、昨日の自分より少し前へ進む。それを真面目に積み重ねていけば、必ず大きな成果につながっていきます。私自身アメフトで得た成功体験でもあります。経済人クラブも同じです。一人ひとりの参加と行動が、この会を育てています。ぜひ一緒に、関大らしいワクワクした「良い群れ」をつくっていきましょう。

「コツコツが勝つコツ」
 経済人クラブでの出会いが成長につながる

皆さまはどんな目的や思いで経済人クラブに参加していますか？
 ここでは皆様の校友活動がさらに充実するようなメッセージをお届けします。



関西大学経済人クラブは1963年11月に関西大学卒業生の産業人同窓者の有志によって、会員相互の親睦と研鑽を図ることを目的として発足しました。これまで政治・経済・文化・科学・芸術の分野まで幅広く取り上げ、会員相互の啓発に取り組みで参りました。

当クラブの例会は、講演会・懇親会を年3回、見学会等の特別例会を年1回、その他ゴルフコンペ等も開催しており各経済界で活躍する会員の交流を図っています。現在、経済人クラブファミリーは、東京・中部・東北・福岡・中国地方と拡大を続けます。2009年に発足した若手会には現役学生の会員もいます。相互で学び成長する場として、卒業後も校友活動に参加しやすい体制づくりに取り組んでいます。

2026
経済人クラブの今

関西大学経済人クラブ 第10代会長 芋縄隆史氏に独占インタビュー。
 2025年に会長就任後、新体制のもとで描く、会の役割とこれからの展望についてお話を聞きました。



2025年は万博 YEAR！
テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」

2025 年度総会

2025年5月12日（月）

大阪・関西万博会場 見学

第246回特別例会／2025年5月12日（月）

第10代会長 芋縄 隆史 氏

本誌 P1・P2 にて、
スペシャルインタビューとして
新会長の思いをお聞きしています。



2025年5月12日（月）、第246回特別例会が開催されました。

今回は、大阪・関西万博の現地視察をメインとした特別企画として実施され、約50名の会員が参加しました。

当日は朝9時に集合し、万博公式キャラクター「ミヤクミヤク」の前で記念撮影を行った後、「電力館」「大阪のれんめぐり」「大阪ガスパビリオン」「大阪ヘルスケアパビリオン」などを順に視察しました。エネルギー・食・健康といった多様なテーマに触れながら、未来社会への理解を深める貴重な機会となりました。また、関西大学経済人クラブの先輩方が万博のさまざまなプロジェクトに関わっておられることを実感し、その活躍に誇りと刺激を受ける視察となりました。

当クラブ第9代目会長の永尾俊一氏は、万博会場内で複数の店舗出店に携わっており、「サステイナブルフードコート大阪のれんめぐり」では代表構成員を務めていらっしゃるようです。当日は永尾氏ご本人が視察全体を先導され、各パビリオンを丁寧にご案内くださり、取り組みの背景や意義について現地で直接共有していただきました。「大阪のれんめぐり」では、大阪の銘店グルメを堪能し、食を通じて「天下の台所大阪」

の魅力を感じることができる機会となりました。また、同エリアのロゴマーク・映像制作には、経済人クラブ会員である岡田光莉氏と松永昂大氏が携わっており、これらの制作は、クラブ内での出会いやご縁をきっかけに生まれたものであります。経済人クラブというコミュニティが育む信頼とつながりの力強さを、あらためて実感する機会となりました。

参加者からは、「実際に現地を訪れることで、万博の熱量や関係者の想いを肌で感じることができた」「経済人クラブのつながりが、社会で確かに生きていると感じた」といった声が多く寄せられました。本例会は、卒業後も相互に学び合い、成長し続ける場としての関西大学経済人クラブの理念を、あらためて体現する一日となりました。

午後からは、アートホテル大阪ベイタワーにて総会が開催され、総勢96名が参加する盛会となりました。

幹事 岡田光莉（令和2年社会学部卒）

歓談の中、芋縄新会長より改めてご挨拶があり、新副会長に選任されたメンバーの紹介がなされた。また、新任の役員紹介があり各自より一言ご挨拶を頂いた。その後、新入会員の方々、ゲストでご参加頂いた方々のご挨拶があり、今回各地域よりご参加頂いた各経済人クラブ代表者の方々からそれぞれご挨拶を頂いた。

その中で、第2回経済人クラブ全国大会が2025年7月12日（土）に東京の青山ステラワックス Restaurant & Bar で開催が予定されているため、積極的な参加の呼びかけがなされた。

経済人クラブの全国への広がりと、各世代が年齢を問わず広く交流するクラブとなっていることを強く実感する総会・特別例会となった。

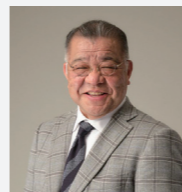
最後に横田英哲副会長の閉会の挨拶により、盛会のうちに閉会となった。

幹事 今村聡（平成18年経済学部卒）



野球が教えてくれたこと

第 247 回例会 / 2025 年 9 月 8 日 (月)



講師プロフィール
掛布 雅之
MASAYUKI KAKEFU

「ミスタータイガース」の愛称で親しまれ、一世を風靡した元プロ野球選手。千葉県出身。高校時代に甲子園出場を果たし、1974年にドラフト6位で阪神タイガースへ入団。高校卒業後1年目から一軍に定着し、持ち前の強い負けん気と努力で主軸打者へと成長、球団を代表する不動の4番打者として活躍し、1985年に日本シリーズ制覇。1988年に現役引退後は、解説者や指導者として後進の育成に尽力。2017年～2019年には阪神タイガース オーナー付シニア・エグゼクティブ・アドバイザーを務める。2025年に野球殿堂入り。

2025年9月8日(月)、第247回例会がホテル阪急インターナショナル6階瑞鳥にて開催された。会場参加は総勢100名を超え盛会となった。
第1部では、芋縄隆史会長のご挨拶の後、野球評論家の掛布雅之氏より「野球が教えてくれたこと」のテーマでご講演をいただいた。進行は、フリーアナウンサーの松浦美代様が務められた。
阪神タイガースのリーグ優勝が決まった翌日のタイミングということもあり、今年の阪神タイガースの強さや印象的なシーンについての話を交えながらの講演内容となった。

1. 阪神タイガースリーグ優勝とその背景
・藤川監督による選手のコンディショニング管理が徹底され、レギュラー選手に大きな怪我が出なかったことが独走優勝の主な要因となった。
・他球団が怪我人の多発で戦力が低下する中、阪神タイガースは怪我人を出さずに勝利を積み重ね、強さを見せつけた。

2. 今後の展望と課題

・阪神タイガースの強力な投手力と本拠地甲子園での強さから、クライマックスシリーズは勝ち抜ける可能性が高いと分析された。
・一方で仮にCSを勝ち抜き、日本シリーズを戦う場面では、パ・リーグの「細かい野球」に対応するため、残り試合で「1点にこだわる野球」を経験する必要がある。

・藤川監督の目標はリーグ連覇であり、そのためにも今年のCS・日本シリーズでの戦い方が重要である。
・個人タイトル争いにかかる選手の活躍にも期待が寄せられている。

3. 掛布氏の野球観と指導論

野球を通してのご自身のご経験から、感じられたいくつかの重要なことについて語られた。

というプロ意識を常に持っていることが紹介された。

阪神タイガース球団90周年と掛布雅之氏の野球殿堂入り、阪神タイガースOB会長就任の年にリーグ優勝を果たしたこともあり、会場は和やかな祝福ムードの中、講演を終えられ、杉江副会長が講師への御礼を申し上げた。

第2部では、来賓のご紹介の後、高橋智幸学長と高岡淳専務理事よりご挨拶を頂いた。乾杯のご挨拶を前田裕常務理事からいただき、懇親会がスタートした。

ゲストを交えての100名以上の参加により、活発な意見交換や交流活動が行われた。歓談の後半には新入会員・ゲスト参加者の紹介の時間が設けられた。また最終盤には若手メンバーにより、アトツギ甲子園、若手会例会、炎ジョイ!みら関BBQのご案内も行われた。

最後は名残惜しい雰囲気の中、安岡優子副会長のご挨拶で盛況のうちに閉会となった。

次回の例会は11月10日(月)に予定。

久野 惣司(平成24年文学部卒)

「終わりのない準備」の重要性
・テスト生からのプロ入り経験から、「一日の準備を継続すること」が成功の絶対条件であったと強調された。
・悔いを残さずプロの世界を去るため、徹底した準備を怠らなかつた姿勢が示された。才能に恵まれなくとも、地道な努力の継続が成功に繋がることを示唆した。
「7割の失敗」から学ぶ姿勢
・将棋の増田先生の言葉を引用し、プロの世界では「10回打席に立って3回ヒットを打てば良いバッター」であるように、「7割の失敗」が許容されることを説明。
・「失敗を恐れず、失敗から学ぶ」ことの重要性を指摘し、「失敗の質を上げる」ことが真の成長に繋がるという考え方を示す。
・「7割の失敗の内容をいかに改善したか」が重要であることを強調された。
指導者の役割とプロ意識の育成
・「二軍の最高峰のレベルに触れさせ、目で見て体で感じさせ、盗んで成長させる」という育成方針を紹介。
・「野球の怖さ」を選手に感じさせることが、継続的な努力の源泉となると指摘。楽しいだけでは継続的な成長は難しい。
・イチロー選手や松井秀喜選手も、「120%の準備」や「明日の準備は当たり前」



講師プロフィール
株式会社なんつね
代表取締役社長
南 常之
(平成10年・文学部卒)
TSUNEYUKI MINAMI

大阪府出身。関西大学文学部教育心理学科卒業。カリフォルニア州立大学ハイワード校および神戸大学大学院経営学研究科にて経営学修士を取得し、2025年には甲南大学大学院にて博士号を取得。2010年より食品機械メーカー株式会社なんつねの4代目社長を務め、創業100年の歴史を持つ企業の経営を担っている。学生時代よりアメリカンフットボールに打ち込み、現在もマラソンやゴルフ、スキダイビング、ワインのソムリエ資格取得など多彩な趣味を持つ。



講師プロフィール
茶筌師
谷村 丹後
(昭和62年・商学部卒)
TANGO TANIMURA

奈良県生駒市出身の茶筌師。関西大学商学部卒業後、会社勤めや輸入雑貨販売店経営などを経て、1993年より家業に専従。2006年、当代第20代目「谷村丹後」を襲名。2013年に佐藤可士和氏、田川欣哉氏と共に中田英寿氏主宰の「REVALUE NIPPON CHARITY GALA with GUCCI」に参加。2015年、経済産業大臣指定伝統工芸士に認定。現在は茶道裏千家淡交会定期巡回講師、奈良県高山茶筌生産協同組合理事長として、茶文化の継承と産地振興に尽力している。

2026年2月2日(月)、関西大学経済人クラブ第249回例会が、ホテル阪急インターナショナルにて開催され、会員・ゲスト参加者が参加しました。

第1部では株式会社なんつね代表取締役社長南常之様(平成10年文学部教育心理学科卒)をお迎えし、「人生も企業もパーパス経営」100年企業経営者の反省記」をテーマにご講演いただきました。

株式会社なんつねは1925年に創業され、1929年に最初の食肉スライサーを開発生産、1954年に曾祖父から祖父へ承継、1985年に北京南常肉食機械有限公司を設立、1989年に祖父から父へ承継され、1999年に韓国南常株式会社を設立、2010年に南様が社長就任し、昨年、創業100周年を迎えられました。

南様は、関大一中、一高、関大を経て、アメリカに留学をされ自己変容を経験し、家業参画後の「スクラップアンドスクラップ」の失敗、2004年12月26日には新婚旅行先モルディブでスマトラ沖地震に遭遇、津波で九死に一生の経験を得られ、「心を入れ替えきちんと生きる」と決意し、人生の目的を「今の子供たちが大人になった時に日本に生まれて良かったと思える国にしたい」と明確にされました。また社長就任後も再学習に積極的に取り組まれました。

2025年11月10日(月)、第248回例会がホテル阪急インターナショナルにて開催された。会場には80名もの会員が集まり盛会となった。

第1部では、高山茶筌二十代を継ぐ茶筌師・谷村丹後氏をお迎えし、「竹と茶筌」をテーマにご講演いただいた。

1・茶筌師としての歩みと高山茶筌の歴史

谷村氏は「関大一族」としてのご家族とのエピソードを交えながら、家業に戻るまでの経緯を紹介された。大阪での会社員生活や輸入雑貨販売店経営を経て、30歳で茶筌作りの世界に入られたこと、そしてこれまでの経験が「今の自分の糧になっている」と語られた言葉が印象的であった。

高山茶筌は室町時代より約500年続く伝統産業であり、現在も奈良県生駒市高山町の16軒のみが製作を担っている。世界的な抹茶ブームの影響で近年需要が急増し、日本国内でも「茶筌不足」が起きている現状についての説明もあった。

2・茶筌づくりの工程と「守破離」の精神

講演では、竹が茶筌に形づくられていく映像が上映され、割り・小割・味削り・面取り・糸掛け・仕上げといった工程が紹介された。特に「味削り」は茶筌作りの要であり、竹の強度としなやかさを決める重要な工程であると説明された。

「今の子供たちが大人になった時に日本に生まれて良かったと思える国にしたい」という目標を達成するため「優れた日本の食」を職人の手を介さずとも世界中で食べられる世界を作り、世界中の人が「日本の食は本当に美味しい」「日本ってすごい」と再認識する状態を目指されています。「これはなんつねのパーパスと個人のパーパスが重なる瞬間です」とお話をされました。

また最後に、オーナー経営者に限らず、あらゆる組織にはパーパスがあり、組織のパーパスと個人のパーパスをどう重ねるか「生きがい」につながる。パーパスは、個人や会社がどこに生命時間を燃やすかを定める羅針盤であるという言葉をもって講演を終えられました。

第2部の懇親会では、来賓紹介の後、和やかな雰囲気のもと活発な交流が行われました。南様にも引き続きご参加いただき、在学生からの質問にも優しく丁寧に回答され終始温かい雰囲気の中で親睦が深められた第249回例会は、盛況のうちに閉会しました。

幹事 中辻大輔(平成19年法科大学院修了)

工程であることが説明された。

伝統工芸の世界における「守破離」の精神にも触れられ、「まずは先人の技を守り、自分の中に通したうえで、新しい挑戦を重ねていきたい」と語られた。伝統と革新の両立に向けた姿勢は、参加者にも深い共感を呼んでいた。

3・講演後の会場の様子

質疑応答では、竹の種類・価格高騰の背景・海外の抹茶文化の広がりなど、多岐にわたる質問が寄せられ、参加者の関心の高さがうかがえた。最後に副会長より謝辞が述べられ、会場は大きな拍手に包まれた。

第2部の懇親会では、来賓紹介の後、和やかな雰囲気のもと活発な交流が行われた。谷村氏にも引き続きご参加いただき、茶筌や竹に関する質問が飛び交うなど、終始温かい雰囲気の中で親睦が深められた。

日本文化の源流に触れ、伝統が今をどう生き続けるのかを考える貴重な機会となった第248回例会は、盛況のうちに閉会した。次回の例会は2026年2月2日(月)に予定。

幹事 松永昂大(令和2年社会学部卒)



経済人クラブ若手会が 機関紙『關大』に登場！

経済人クラブ若手会の取り組みが、関西大学校友会が発行する機関誌『關大』第648号に掲載されました。

記事では、例会やイベントを通じた学びと交流の様子に加え、若手会が果たしている役割や、経済人クラブの未来を担う存在としての期待についても紹介されています。世代や業種を越えたつながりの中で、若い世代が主体的に学び、挑戦する場としての若手会の活動が、学内外に向けて発信される機会となりました。

若手会は今後も関西大学経済人クラブの歴史と伝統を大切にしながら、新しい価値創出や人材育成につながる活動を通して、会のさらなる発展に貢献してまいります。



機関誌『關大』第648号より

第2回 関西大学校友会 経済人クラブ全国大会

2025年7月12日(土)



2025年7月12日(土)、東京・青山にあるSTELLAR WORKS Restaurant & Barにて、「第2回 関西大学経済人倶楽部 / クラブ全国大会」を開催しました。当日は、芝井理事長や田中校友会会長をはじめ、全国6つ(東京、大阪、中部、東北、福岡、中国)の経済人倶楽部 / クラブファミリーから計70名の皆様にご参加いただきました。全国大会は学歌斉唱で幕を開け、大津会長からの挨拶のあと、芝井理事長からは祝辞をいただきました。ミニトークでは、東京経済人倶楽部・大津会長と豊田運営委員(株式会社イトーキ)の二人から、世界的な家具メーカーである「ステラワークス」とクールジャパン機構とのつながり、そしてそのビジネスマッチングの裏側には東京経済人倶楽部の存在があったことなどが語られました。その後の乾杯には、今回特別にベルギービールが用意され、田中校友会会長のご発声により、懇親会がスタートしました。ミシュランガイド二つ星のエグゼクティブシェフ・入江 誠さんによる自慢の料理「ボーダーレスな地中海料理」を囲んで、とても和やかで活発な交流が繰り広げられました。全国の倶楽部 / クラブファミリーの代表者から、近況の報告や、今後の展望についてお話いただき、加えて、入江 誠シェフ本人からもご挨拶がありました。楽しい歓談の時間はあっという間に過ぎ、最後に、前田東京センター長(学校法人関西大学・常務理事)から謝意や期待が述べられ、盛況のうちに閉会いたしました。

続いて、二次会は赤坂に会場を移して、窓やテラスから東京タワーやスカイツリー、レインボーブリッジが一望できる超高層ビルのラウンジで、暮れゆく都会の風景を眺めながらさらなる懇親のひとときを過ごしました。

次回の経済人クラブ全国大会は2026年10月23日(金)福岡市内で行います。



2026.May-2027.April SCHEDULE

今期のスケジュールをご案内！
ぜひ予定をチェックしてご参加ください。

ゴルフコンペ

茨木カントリー倶楽部
2026年9月10日(木)
2027年春

- 2026年度総会・第250回例会
2026年5月11日(月) 18:00 ①ホテル阪急インターナショナル
- 第251回例会
2026年9月7日(月) 18:00 ①ホテル阪急インターナショナル
- 第252回特別例会
2026年11月27日(金) ①カップヌードルミュージアム・不死王閣
- 第253回例会
2027年2月1日(月) 18:00 ①ホテル阪急インターナショナル

Event 第3回 関西大学校友会 経済人クラブ全国大会
2026年10月23日(金) ①福岡市内 ※10月24日(土)は 関西大学フェスティバル in 九州・沖縄

※掲載内容は予告なく変更となる場合がありますので、ご了承ください。
最新の情報は随時 公式ウェブサイト (https://ku-keizaijinclub.jp) をご確認ください ▶

関西大学 経済人クラブ



GOLF COMPETITION

経済人クラブ ゴルフコンペ



経済人クラブ秋のゴルフコンペが、9月11日に名門茨木カントリー倶楽部西コースで開催されました。前日までの天気予報では、午前中は強い雨予報で中止もやむを得ない状況でしたが、ゴルフ場に到着した際には、すっかり雨も止んでいて問題なくプレーできました。

初参加1名を含む30代〜80代の幅広い年齢層の会員20名に参加いただき、ゴルフを通じて親睦を深めることができました。また、深いラフとアンジュレーションの効いた高速グリーンにかなり苦しめられました。戦略性のあるコースでプレーを楽しみました。終了後は表彰式と懇親会を開催し、芋縄会長・石川氏・上山氏より、賞品と参加賞を協賛いただきました。楽しいゴルフコンペとなりました。

優勝は村上康司、2位は古淵敦史氏、3位は大倉幾三郎氏となりました。次回は、2026年春に茨木カントリーで開催予定です。皆様の参加をお待ちしております。

代表幹事 村上康司(平成6年法学部卒)

MEMBER'S VOICE

経済人クラブメンバーのこれまでの歩み、仕事への思い、未来への考えをお届けします。世代も立場も違うからこそ見えてくる、多様な価値観や挑戦のかたちがあります。そのリアルなストーリーから、皆さまの人生のヒントが見つかるかもしれません。

私は現在、千日前道具屋筋商店街にある株式会社千田の取締役専務として、調理道具・厨房機器を扱う家業に携わっています。千田は今年で創業134年。私で6代目になります。

正直に言うと、最初から家業を継ぐとは思っていませんでした。大学では2年間休学、19歳のときに世界一周をし、インドで出会ったベンチャーキャピタリストとの出会いをきっかけに、ITやスタートアップの道に興味を持つようになりました。大学時代はIT企業での長期インターンをはじめ、制作会社でのWebディレクションなど家業とは全く違う分野の業界で実務経験を積みました。

そんな中、関西大学の「後継者ゼミ」で山野先生と出会い「ベンチャー型事業承継」という考え方を学びました。「家業を継ぐ」ではなく「事業として進化させる」という選択肢を学び、その考えを広めるための後継者向けイベントの開催にも取り組みました。学生の頃から、事業承継を挑戦の場として捉えられたことは、今の私にとって大きな財産です。同時に、人間健康学部のゼミ活動を通じて熊野地域の活性化にも携わっており、家業を継ぐこと、ゼロから始める起業の両方に関心を持つようになりました。考えた末、後に役立つだろうと、まずは自分でやってみることを選択。卒業後は大学の先輩と一緒に熊野地域で飲食店とゲストハウスを共同創業しました。

老舗企業6代目、歴史という最大の武器を活かし 業界の「ニュースタンダード」を生み出す

創業という経験をした後、事業譲渡をして、2020年3月、26歳で家業に入りました。入社当初はもちろん意思決定権がなく、将来責任を負う立場とのギャップに葛藤もありました。まずは現場で信頼を積み上げるしかない、個人売上の目標達成や売り場改善、業務の見直しに一つずつ取り組みました。例えば、お客様からの要望を「問い合わせノート」として可視化し、商品仕入れやサービス改善につなげる仕組みをつくったり、これまで「知る人ぞ知る」という状態だった情報を誰でも分かる形で伝えたりと、工夫を進めてきました。

今は、修行を経ずに飲食店を開業する人が増えています。そんな中で、道具や機器の知識を学ぶ場が少なくなっているとも感じます。だからこそ道具を売るだけでなく「ここに来れば教えてもらえる」専門店としての価値を高めていきたいと考えています。今後はキッチンスタジオを設けて、体験を通して食文化や道具の魅力を伝える場づくりも進めていく予定です。料理は暮らしを豊かにする素敵な時間。幸せな食卓を作りたい、守りたいという思いが根底にあります。

家業を継ぐことは、同時に、これまで積み重ねてきた「信用」を受け継ぐことにもなります。歴史という最大の武器を守ること、はもちろん、進化しながら世の中に新しい価値を生み出していきたいです。

Message for Keizaijin Club Members

AIが進化し、情報が簡単に手に入る時代だからこそ、これからは「フィジカル」と「コミュニティ」の価値が、ますます高まっていくと感じています。体を動かす経験や、限られたつながりは、お金や時間をかけなければ得られないからこそ貴重です。経済人クラブのようなリアルなコミュニティでの出会いは、思ってもみなかった視点やアイデアをもたらしてくれますし、一人では見られなかった世界が開けていく感覚があります。何より、共に切磋琢磨し、成長していける仲間に出会えることが嬉しいです。そんな前向きな循環を、これからも広げていけたらと思っています。



Yusuke Senda

株式会社千田 取締役専務
千田 佑典
2018年 人間健康学部人間健康学科卒業



1 1892年創業 株式会社千田本社。
2 千日前道具屋筋商店街の様子。
3 調理道具・厨房機器が並ぶ店内。



株式会社 **千田**
公式HP

Message for Keizaijin Club Members

経済人クラブには、約30年前に入会しました。当時、ライオンズクラブで一緒にいた大倉さんに誘っていただいたことがきっかけです。その後、ご縁があり第8代会長を務めさせていただきました。今、若い方からベテランまで男女問わず、幅広い世代が集まって活気のある会になっているのを見ると、嬉しい気持ちになります。会社も、経済人クラブも、結局は人です。これからも「出会い」と「人とのつながり」を大切にしていきたいと思っています。



1 創業初期の生田氏と松茂憲吾氏。
2 社史。社長交代の際に作成した生田氏の自叙伝。



住宅設備機器総合商社 **DAIMATSU**
公式HP



Keiichi Ikuta

株式会社大松 会長
生田 圭一
1968年 経済学部経済学科卒業
関大大学経済人クラブ 相談役
第8代会長(2017年~2021年)

2026年で創業50年を迎える 年商350億円企業の創業ストーリーに触れる

私は5男3女の8人兄弟の末っ子で、実家は地域の「よろずや」をしており、子どもの頃から商売というものが身近にある環境で育ちました。将来は野球選手になりたいと思っていた時期もありましたし、関大一高では軽音楽部でバンドに夢中になっていました。大学卒業後は東京で音楽の道に進むことを考えましたが、家族の反対もあってその夢は諦めることになりました。

その後、家庭金物問屋の御三家の一つと言われていた「松茂実業」に入社し、商売の基礎を学びました。とにかく商売で一番になりたい、そんな思いが強かったですね。そして、同社の常務であった松茂憲吾氏と一緒に、31歳のときに独立を決意しました。26歳で結婚した私は、当時子どもが二人います。夫と背中を押してくれました。

1977年、大阪で株式会社大松を立ち上げ、憲吾氏が社長、私が専務として二人でゼロからのスタートでした。創業から約10年後、平成元年に憲吾氏が亡くなり、その後は私が社長として会社を引き継ぐことになりました。もちろん、これまで順調なことばかりではなく経営の危機もありましたが「営業して売上をつくれれば、会社は必ず立ち直る」と、とにかく気持ちは前を向いて走り続けてきました。

社長になって、私が特に力を入れたのが採用です。景気が悪く他社が新卒を入れない時も、4年生卒の新卒採用を続けました。なぜなら、新卒は頭が柔軟できっちりしていますし、教育をすればしっかり伸びてくれるからです。おかげさまで当時入社した社員は今の取締役や各支店長といった管理職になっています。会社を発展させていくにはなんといっても優秀な社員を持つことが一番大事です。手帳には、社員全員の誕生日や結婚記念日を書いて、社員の労をねぎらいました。

売上が100億円を超えたとき、長年の目標だった自社ビルを購入しました。そのとき社員に伝えたのが、「社員300人で売上300億円の会社を目指そう」という言葉です。

昭和の時代は憲吾氏が、平成は私が、そして令和は現社長へとバトンを渡し、今の時代を走っています。現在の社長になり売上は350億円になりました。

会社がここまで大きくなったのは、間違いなく「人」の力です。社員はもちろん、取引先や同業の仲間、先輩経営者の存在にも何度も助けられました。だからこそ私は、やっぱり一番大切なのは「仲間」だということを、これからも伝えていきたいです。

上ノ山 貴之	1998 経	株式会社日清製粉ウェルナ 関西営業部/部長
沖中 龍三	1987 社	株式会社マツダ運輸大阪/代表取締役社長
奥村 良祐	2006 商	中小企業診断士
尾崎 泰輔	1989 法	株式会社エール/代表取締役
一森 雄介	2003 経	株式会社フジテックス/代表取締役社長
北川 元洋	1982 社	株式会社関大パンセ/代表取締役
木村 友亮	2006 経	株式会社でりでりパーベQ/代表取締役社長
熊田 征純	2008 工	ニッケンかみそり株式会社/常務取締役
近藤 修	1999 経	税理士法人ティームズ/税理士・マネージャー
坂本 光平	2006 商	株式会社坂本鉄工/代表取締役社長
鷺岡 和徳	1987 商	株式会社徳/代表取締役
篠木 力哉	1996 商	ヤシマ株式会社/代表取締役社長
高瀬 美帆	2008 文	株式会社グルーヴ/局長
竹田 朋	1992 文	雪印メグミルク株式会社/執行役員 西日本支社長
竹花 知彦	1988 工	岩谷マテリアル株式会社/取締役副社長
富井 竜馬	2011 商	友栄食品興業株式会社/常務取締役
西野 由章	2004 社	光陽商事株式会社/取締役専務執行役員
野口 龍二	2008 法	株式会社インフェライズ/代表取締役社長
濱崎 航平	2020 社	株式会社濱崎銃砲火薬店/取締役
東野 敦	1993 社	People Trees 合同会社/社長 (代表社員)
廣瀬 考俊	2002 工	行政書士ブリッジ法務事務所/代表
馮 楠楠	2008 社	恒瑞貿易株式会社/代表取締役
藤原文徳	1988 工	マイプラス株式会社/取締役副社長
古田 盛彦	1985 経	フルタ製菓株式会社/代表取締役社長
松本 英明	1991 社	株式会社オカムラ/執行役員 商環境事業本部営業本部 西日本営業本部長
源 雄斐	1956 商	株式会社 casual /代表取締役
森脇 啓介	2012 政	森脇産業株式会社/代表取締役社長
山口 洋次	2004 経	株式会社 y4create /代表取締役
山本 正志	1996 法	株式会社三菱 UFJ 銀行/執行役員 地区本部長
渡部 泰誠	1998 総	PUX 株式会社/取締役

※敬称略、五十音順、数字は卒業年度を表します

編集後記



岡田 光莉 (おかだ ひかり)
株式会社 KERRY
代表取締役
(令和2年・社会学部卒)

この度、「経済人クラブニュース 2026」を無事お届けできることを大変嬉しく思います。本号では、例会など一年の活動の様子をお伝えするとともに、新たな試みとして「MEMBER'S VOICE」という企画を設け、それぞれの分野で活躍される会員の方々の歩みや活動についてご紹介しています。また、新会長にもインタビューにご協力いただき、経済人クラブの今後のビジョンについて、貴重なお話を伺うことができました。取材・インタビューを通して、会員の皆さまの価値観やこれまでの歩みに触れることができ、編集担当として多くの学びをいただきました。お聞きした貴重なお話を、皆さまにより分かりやすく、そして心に残る形でお届けできるよう心がけながら誌面づくりを進めてまいりました。本誌が会員の皆さまの活動や交流を知るきっかけとなり、クラブの輪がさらに広がる一助となれば幸いです。今後も、関西大学経済人クラブがますます発展していくことを願っております。最後になりましたが、本誌の制作にあたりご協力いただきました皆さまに、心より御礼申し上げます。

MEMBER'S COLUMN

ここでは個性豊かな経済人クラブメンバーのご紹介をします。気になる“あの人”のお仕事のこと、趣味のこと、頭の中のこと……のぞいてみましょう！思わぬ共通点やもっと聞きたい情報に出会うかも。

自意識過剰な女



朝の通勤混雑時の阪和線乗車時間は、通常なら30分のところが45分ほどかかる。朝から疲れるので、最寄り熊取駅のホームで10分ほど待つて座れる電車で通勤していた。

長時間の車内にて、会社のアメモとXをチェック後に本を読むのがルーチン。SNSを終えた後に、手にしたスマホと鞆内の本を出し入れするタイミングが悩みの種だった。横で立っている人がスマホを仕舞う私を見て、次駅で下車し席が空くと期待するのではな

いかと気になる。間もなく次駅に着く時などは、スマホ作業を終えても鞆を触らずに時間調整。電車が駅を出てからスマホを仕舞い、



1 最寄り駅の「熊取駅」
2 阪和線走るくろしお
3 阪和線走るはるか



安岡 優子
(やすおか ゆうこ)
株式会社中央情報センター
代表取締役

昭和62年関西大学経済学部卒業。上新電機(株)に新卒入社、後3社を経て、1998年3月23日(株)中央情報センターを設立。クライアントを法人に特化した信用調査会社を営む。企業調査、反社会勢力関与調査、人材の採用調査を主とし、法人運営にまつわる調査業務全般を行っている。
<https://tyousa.co.jp>



門脇 翔 (かどわき しょう)
lifestyle consulting inc
CEO

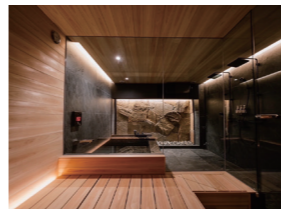
平成22年法学部法律学科卒業。東証プライム上場のIT企業にて約10年間勤務のち、令和元年に会社を創業。ライフスタイル/好きなことで働く「生き方改革」をコンセプトに各ソリューションを展開。サウナに関しては、サウナプロデューサー/アドバイザーとして活躍中。通称、ミスター温冷。サウナのことなら何でもご相談ください。
<https://lifestyle-consulting-inc.com>

「サウナ」と聞いて、苦手な方もいるではないでしょうか。実際僕も苦手でしたし、関係のないものと思っていました。ただ、僕は子どもの時からアトピーで肌が弱く悩んでおり、医者からは汗をかいたほうがよいと言われていました。ちょっと走ってみるなどの運動では情性で全く習慣化せずに困っていたところ、友人からの勧めでサウナを試してみたことで、肌質改善の実感を得る事ができたのです。それが僕と「サウナ」との出会いであり、ハマるきっかけとなりました。以後、毎日必ずサウナに行くことをタスクに掲げ、1日1サウナを続けて今年で6年目に突入。新規サウナ訪問数のKPIを年間+100件と設定し、累計500件を超えました(笑)。当時のサウナブームもありましたが、「ここはいいな」「ここは微妙だな」というのを自分なりに分析していたこともあり、気付いたらそれが仕事になっていました。ライフスタイルを軸に、「好きなこと」で事業展開する僕の会社においては非常に相性がよかったです。現在、サウナ事業としては設計・施工チームと共に新規プロデューサーや改修時のコンサルティング、イベントサポート等をやっています。

サウナは爽快感が得られますし、物事をクリアに考えられることも良い点だと思っています。経営者にサウナ好きが多いのも事実ですし、実際、新しいアイデアが浮かぶのはいつもサウナ中です(笑)。世代の垣根を超えた裸の付き合いという点もあり、現役の学生たちと一緒に入ることもよくありますし、「コミュニケーションの一つとして活用しています」。

安全性を担保した施設作りは勿論のことですが、サウナコミュニティ作りや温冷浴の伝承などもミッションとしながら、仲間たちと関西の温浴業界を元気にしていきたいと思っています。

新しいアイデアが浮かぶのは、いつもサウナに入っているとき!



プロデューサー施設『天翔 SAUNA』